

■（２３０）終わっていない東日本大震災を津波で実感

２２日早朝、大きな揺れが続き、防災行政無線のサイレンが響いた。岩手県に津波注意報が出されたのは昨年９月以来で、震源に近い福島県では「原発は大丈夫か」と緊張が走った。気象庁は「東日本大震災の余震」と発表。５年８カ月過ぎても、まだ続く。

釜石市は今年度、避難訓練のあり方を見直そうとしている。１人でも多くの住民が１度でも多く、訓練に参加してもらうにはどうしたらいいかを課題とする。１１月上旬には、初めて休日に実施した。震災時のように学校や職場でまとまって行動はできない。各人が家庭などでどこに逃げるかを判断しなければならない。約１３００人が参加した。沿岸の避難対象地区に住民票を置く住民の１割。津波で浸水した区域はまだ復興工事が終わっておらず、まだわずかな住民しか戻っていないことを考えれば、まあまあ成績だった。だが、今回の本番では、避難所に逃げた住民は２００人余り。あまりにも少ない。

津波注意報で避難勧告にとどまったのが一因だったかも。それでも、もう油断しているのかもと危惧する。人の忘却の速さは恐ろしい。まだ震災が継続中なのに、だ。（山）